

**Oracle® Integrated Lights Out Manager
(ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4800
サーバー**

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
製品情報 Web サイト	5
関連マニュアル	5
このドキュメントについて (PDF および HTML)	7
ドキュメントのコメント	7
変更履歴	8
ILOM 補足マニュアルの概要	9
Oracle ILOM ソフトウェアの概要	11
ILOM のドキュメントの概要	11
ILOM ソフトウェアの概要	11
ILOM の機能	12
ファームウェアの更新	13
ファームウェアバージョンワークシート	13
現在のファームウェアバージョンを特定する	14
ファームウェア更新の準備作業	20
ILOM およびシステム BIOS を更新する	21
組み込み HBA BIOS を更新する	26
インジケータ、センサー、およびトラップ	29
インジケータ	29
センサー	31
SNMP トラップおよび PET トラップ	36
索引	41

はじめに

ここでは、関連するドキュメントと、フィードバックを送信するプロセスについて説明します。またドキュメントの変更履歴も示します。

- 5 ページの「製品情報 Web サイト」
- 5 ページの「関連マニュアル」
- 7 ページの「このドキュメントについて (PDF および HTML)」
- 7 ページの「ドキュメントのコメント」
- 8 ページの「変更履歴」

製品情報 Web サイト

Sun Fire X4800 サーバーの詳細については、Sun Fire X4800 サーバーの製品サイトを参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/x4800>

このサイトには、次の情報やダウンロードへのリンクがあります。

- 製品情報および仕様
- サポートされているオペレーティングシステム
- ソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード
- サポートされているオプションカード
- 外部ストレージオプション

関連マニュアル

次の一覧は、Oracle Sun Fire X4800 サーバーに関連するドキュメントの一覧です。これらのドキュメントとその他のサポートドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。

<http://www.oracle.com/goto/x4800>

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
Sun Fire X4800 サーバー固有のドキュメント	Sun Fire X4800 サーバー製品ドキュメント	アスタリスク (*) が付いているすべてのドキュメントの統合 HTML 版。検索と索引が含まれる。
	『Sun Fire X4800 サーバーご使用の手引き』	図を多用した、設定のためのクイックリファレンス。
	『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』	最初の電源投入までの、サーバーの設置、ラック取り付け、および設定方法。
	『Sun Fire X4800 サーバーご使用にあたって』	サーバーに関する重要な最新情報。
	『Sun Installation Assistant 2.3 through 2.4 User's Guide for x64 Servers』	サポート対象の Windows または Linux OS の補助付きインストール、ファームウェアのアップグレード、およびその他の作業に使用する Sun のツール。
	『Sun Fire X4800 サーバー Oracle Solaris オペレーティングシステム設置マニュアル』	Oracle Solaris OS をサーバーにインストールする方法。
	『Sun Fire X4800 サーバー Linux オペレーティングシステム設置マニュアル』	サポート対象の Linux OS をサーバーにインストールする方法。
	『Sun Fire X4800 サーバー Windows オペレーティングシステム設置マニュアル』	サポート対象のバージョンの Microsoft Windows をサーバーにインストールする方法。
	『Sun Fire X4800 Server Diagnostics Guide』	サーバーの問題を診断する方法。
	『Sun Fire X4800 サーバーサービスマニュアル』	サーバーのサービスと保守の方法。
『Sun Fire X4800 Server Safety and Compliance Guide』	サーバーの安全性および適合性に関する情報。	
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4800 サーバー』	サーバーの Integrated Lights Out Manager のバージョン固有の補足情報。	
『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』	サーバーにインストールされているユーティリティの使用法。	
保守ラベル	シャーシと CPU モジュールにある保守ラベルのコピー。	

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
Sun Integrated Controller Disk Management	『Sun x64 Server Disk Management Overview』	サーバーの記憶域の管理に関する情報。
x86 Servers Applications and Utilities Reference Documentation	『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』	サーバーにインストールされているユーティリティの使用方法。
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Documentation (以前の Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ドキュメント)	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Feature Updates and Release Notes』	ILOM の新機能に関する情報。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Getting Started Guide』	ILOM 3.0 の概要。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Concepts Guide』	ILOM 3.0 の概念に関する情報。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface Procedures Guide』	ILOM を Web インタフェースを通じて使用する方法。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI Procedures Guide』	コマンドによって ILOM を使用する方法。
	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Management Protocols Reference Guide』	管理プロトコルに関する情報。

このドキュメントについて (PDF および HTML)

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。トピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

ドキュメントのコメント

製品ドキュメントの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/secure/products-n-solutions/hardware/docs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルとパーツ番号を記載してください。

変更履歴

このドキュメントセットには次の変更が加えられています。

- 2010年4月 - 設置マニュアルのリリース
- 2010年6月 - 設置マニュアルおよびご使用の手引きの再リリース
- 2010年7月 - その他のドキュメントの初回リリース

ILOM 補足マニュアルの概要

注-このトピックセットに記載されている手順を実行する前に、『[Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル](#)』の説明に従ってハードウェアをセットアップしてください。

このトピックセットでは、次の項目について説明します。

説明	リンク
Integrated Lights Out Manager (ILOM) を使用してサーバーを管理する方法について学習します。	11 ページの「ILOM ソフトウェアの概要」
ILOM、BIOS、および HBA ファームウェアを更新します。	13 ページの「ファームウェアの更新」
ILOM のインジケータとセンサー、および SNMP トラップと PET トラップに関する情報を確認します。	29 ページの「インジケータ、センサー、およびトラップ」

Oracle ILOM ソフトウェアの概要

この節では、次のトピックについて説明します。

- 11 ページの「ILOM のドキュメントの概要」
- 11 ページの「ILOM ソフトウェアの概要」
- 12 ページの「ILOM の機能」

注 - 『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI Procedures Guide』には、パスワードを忘れた場合に ILOM シリアルコンソールからパスワードを復元する方法が記載されています。復元の一環として、操作を行うユーザーがサーバーの設置場所に物理的に存在していることを証明する必要があります。物理的に存在することを証明するには、位置特定ボタン (サーバー正面の一番左側、およびサーバー背面のシリアル管理ポート付近にあるボタン) を押します。

ILOM のドキュメントの概要

次に示すドキュメントに、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) に関する各種情報が記載されています。

- Oracle Integrated Lights Out Management (ILOM) 3.0 マニュアルセットには、ILOM に関する詳しい情報が記載されています。
- 『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』の「配線と電源」には、ILOM と通信できるようにサーバーにケーブルを接続するための手順が記載されています。
- 『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』の「ILOM およびシステムコンソールとの通信」には、ILOM に接続するための手順が記載されています。

ILOM ソフトウェアの概要

ILOM は、高度なサービスプロセッサハードウェアおよびソフトウェアで構成され、Sun サーバーの管理と監視に使用することができます。ILOM 専用のハードウェアとソフトウェアは、x64 ベースの Sun Fire サーバー、Sun Blade モジュラーシャーシシステム、Sun Blade サーバーモジュール、SPARC ベースのサーバーなど、さまざまな Sun サーバープラットフォームにプリインストールされ

ています。ILOMはデータセンターに不可欠な管理ツールであり、すでにシステムにインストールされているほかのデータセンター管理ツールと統合して使用できます。

Oracleの製品ライン全体にわたって、標準に準拠した一貫性のある単一のサービスプロセッサ (service processor、SP) を提供するため、現在、多くのシステムでILOMをサポートするための移行を進めています。

これには、ユーザーにとって次のような利点があります。

- オペレータ用の単一で一貫性のあるシステム管理インタフェース
- 各種プロトコルやさまざまな標準に対応
- 他社管理のサポートの拡大
- 追加コストなしでシステム管理機能を Oracle サーバーに統合

ILOMの機能

ILOMを使用すると、オペレーティングシステムの状態とは独立にサーバーをアクティブに管理および監視し、信頼性の高い Lights Out Management (LOM) システムを実現できます。ILOMでは次のことが可能です。

- ハードウェアのエラーと障害を発生時に認識します。
- サーバーの電源状態を遠隔から制御します。
- ホストのグラフィカルコンソールまたはグラフィカルでないコンソールを表示します。
- システム上のセンサーとインジケータの現在の状態を表示します。
- システムのハードウェア構成を確認します。
- IPMI PET 警告、SNMP トラップ警告、または電子メール警告によって、事前にシステムイベントに関して生成された警告を受け取ります。

ILOM サービスプロセッサ (service processor、SP) は、組み込まれているオペレーティングシステムで動作し、専用の Ethernet ポートを利用して、帯域外管理機能を実現します。さらに、Sun がサポートしているホストオペレーティングシステム (Oracle Solaris、Linux、および Windows) で動作するサーバーから ILOM にアクセスできます。ILOMを使用すると、キーボード、モニター、およびマウスをローカルで接続して使用するのと同じように、サーバーを遠隔から管理できます。

サーバーに電源が投入されるとすぐに、ILOMは自動的に初期化されます。完全な機能を備えたブラウザベースの Web インタフェースと、それと同等なコマンド行インタフェース (command-line interface、CLI) を利用できます。さらに、業界標準の SNMP インタフェースと IPMI インタフェースも利用できます。

ファームウェアの更新

ILOM 用、システム BIOS 用、および LSI HBA 用の各ファームウェアは定期的に更新されます。更新されたファームウェアはサーバーのダウンロードサイトから入手できます。それにより、サーバーに対する機能の拡張やバグの修正が可能です。ファームウェアコンポーネントは、ソフトウェアの最新版ごとに、すべてをまとめて更新する必要があります。13 ページの「ファームウェアバージョンワークシート」を使用すると、アップグレードプロセスに必要なファームウェアのバージョンを記録できます。

ファームウェアの更新プロセスは、次の各トピックで説明する手順に従って実行します。これらの手順は、推奨される実行順に記載されています。

手順	説明	リンク
1	現在サーバー上で実行されているファームウェアのバージョンを確認します。	14 ページの「現在のファームウェアバージョンを特定する」
2	対象となるファームウェアバージョンを決定し、そのファームウェアをダウンロードします。	20 ページの「ファームウェア更新の準備作業」
3	ILOM およびシステム BIOS を更新します。	21 ページの「ILOM およびシステム BIOS を更新する」
4	組み込み HBA BIOS を更新します。	26 ページの「組み込み HBA BIOS を更新する」

ファームウェアバージョンワークシート

次の表は、この章で説明する各手順で特定したファームウェアバージョンを記録しておくためのものです。

ファームウェアのタイプ	現在のバージョン	中間バージョン	対象バージョン
ILOM[ILOM]			

ファームウェアのタイプ	現在のバージョン	中間バージョン	対象バージョン
BIOS			
LSI HBA		なし	
CPLD			
NEM[NEM]			
FMOD			

現在のファームウェアバージョンを特定する

ここで説明する手順のうち最初の3つは、ILOM および BIOS の現在のファームウェアバージョンを特定するための手順です。4つめの手順は、LSI HBA のファームウェアバージョンを特定する方法を示したものです。

ここで説明する手順の具体的な内容は次のとおりです。

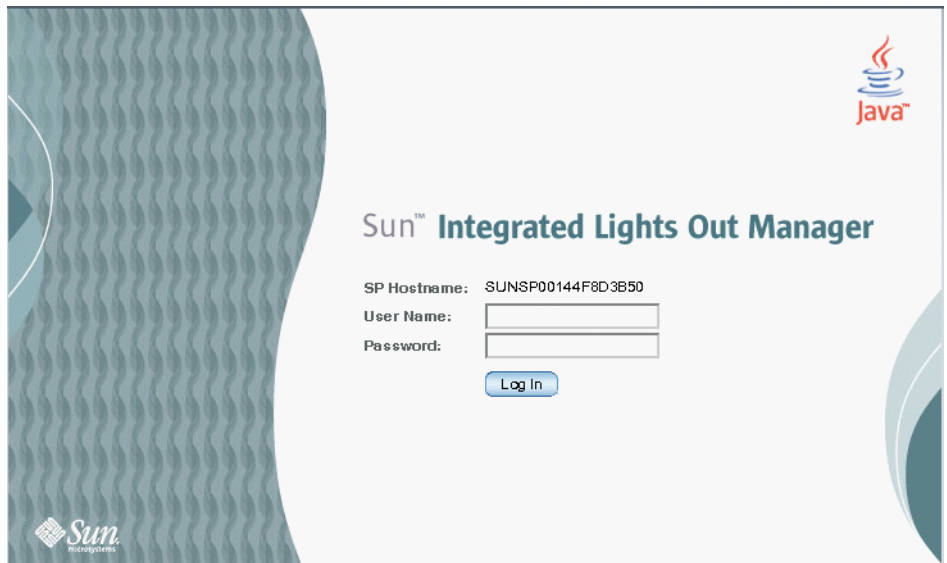
- 14 ページの「Web インタフェースを使用して ILOM および BIOS のファームウェアバージョンを確認する方法」
- 17 ページの「コマンド行インタフェースを使用して ILOM および BIOS のファームウェアバージョンを確認する方法 (シリアルポート経由)」
- 18 ページの「コマンド行インタフェースを使用して ILOM および BIOS のファームウェアバージョンを確認する方法 (管理 Ethernet ポート経由)」
- 19 ページの「LSI HBA のファームウェアバージョンを確認する方法」

▼ Web インタフェースを使用して ILOM および BIOS のファームウェアバージョンを確認する方法

- 1 使用しているブラウザのアドレスフィールドにサーバーの SP の IP アドレスを入力して、ILOM Web インタフェースに接続します。たとえば、次のように入力します。

`https://129.146.53.150`

ILOM のログイン画面が表示されます。



The image shows the login interface for Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM). The background features a teal wavy pattern on the left and a light gray area on the right. In the top right corner, there is a Java logo. The main title is "Sun™ Integrated Lights Out Manager". Below the title, the "SP Hostname" is displayed as "SUNSP00144F8D3B50". There are two input fields: "User Name:" and "Password:". A blue "Log In" button is positioned below the password field. The Sun Microsystems logo is located in the bottom left corner.

SP Hostname: SUNSP00144F8D3B50

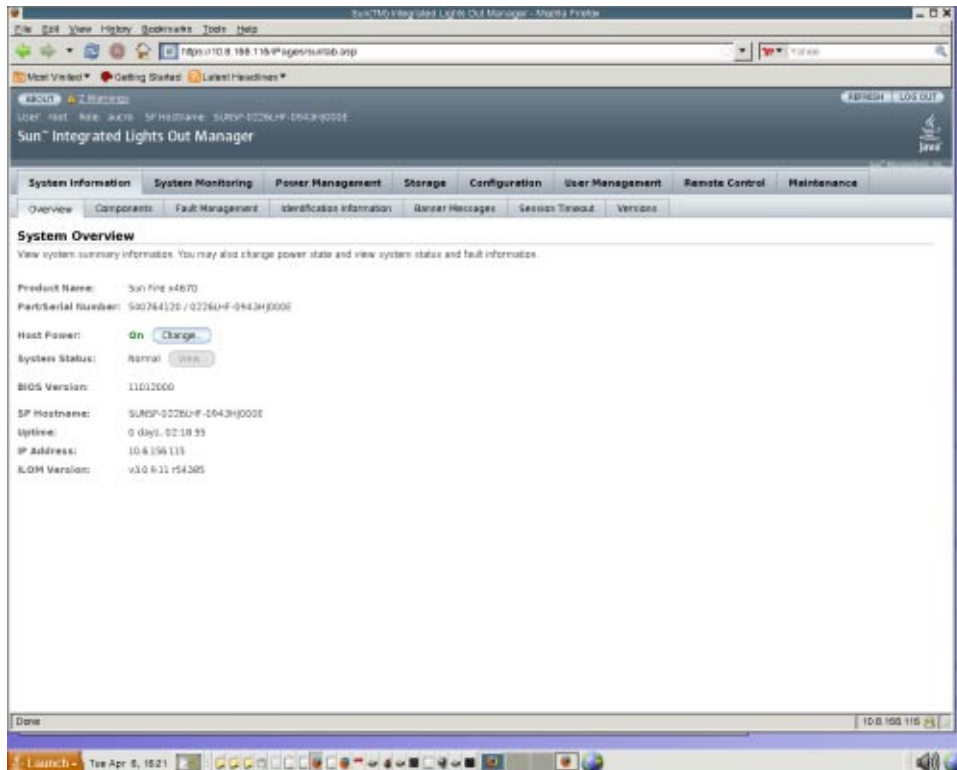
User Name:

Password:

[Log In](#)

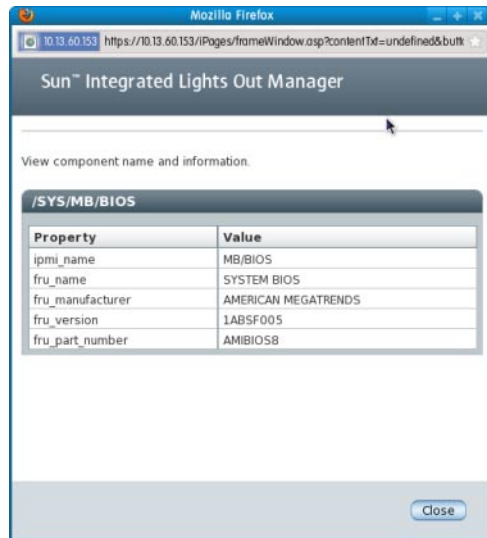
- 2 ILOM SP にログインして、デフォルトのユーザー名 (**root**) とデフォルトのパスワード (**changeme**) を入力します。

最初に「System Information」の「Overview」ページが表示されます。このページではILOM のバージョンおよびビルド番号を確認できます。



- 3 「System Information」の「Components」をクリックします。
- 4 「Component Name」フィールドの「/SYS/BIOS」をクリックします。
「view component name and information」ダイアログボックスが表示されます。

FRUバージョンのフィールドに、BIOSのバージョン番号が表示されます。



- 5 13 ページの「ファームウェアバージョンワークシート」に **ILOM** および **BIOS** のバージョンを記入します。

▼ コマンド行インタフェースを使用して **ILOM** および **BIOS** のファームウェアバージョンを確認する方法(シリアルポート経由)

- 1 端末デバイス、またはラップトップか **PC** で稼働しているターミナルエミュレーションソフトウェアを次のように設定します。
 - 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
 - 9600 ボー
 - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
 - ソフトウェアのフローコントロール無効 (XON/XOFF)
- 2 サーバーの背面パネル上にある **RJ-45 SER MGT** ポートと、端末デバイスまたは **PC** をシリアルケーブルで接続します。
- 3 端末デバイス上で **Enter** を押して、端末デバイスとサーバーの **SP** 間の接続を確立します。
SPにより次のようなログインプロンプトが表示されます。

SUN0111AP0-0814YT06B4 login:

デフォルトの場合、ログインプロンプトには製品のシリアル番号が表示されます。この例では、0111AP0-0814YT06B4がそれに相当します。この値は、ユーザーまたはDHCPサーバーによって割り当てられるホスト名の場合もあります。

- 4 **ILOM SP** にログインして、デフォルトのユーザー名 (**root**) とデフォルトのパスワード (**changeme**) を入力します。

正常にログインすると、SPにデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

->

- 5 **ILOM** のバージョン情報を表示する場合は、次のコマンドを入力します。

```
version
```

このコマンドにより、次のような出力が返されます。

```
SP firmware 2.0.2.16
SP firmware build number: 42063
SP firmware date: Mon Feb 9 22:45:34 PST 2009
SP filesystem version: 0.1.16
```

- 6 **BIOS** のバージョンを表示する場合は、次のコマンドを入力します。

```
show /SYS/BIOS
```

このコマンドにより、次のような出力が返されます。

```
/SYS/MB/BIOS
Targets:

Properties:
type = BIOS
ipmi_name = MB/BIOS
fru_name = SYSTEM BIOS
fru_manufacturer = AMERICAN MEGATRENDS
fru_version = 1ABSF005
fru_part_number = AMIBIOS8

Commands:
cd
show
```

fru_version フィールドに、BIOS のバージョン番号が表示されます。

- 7 [13 ページの「ファームウェアバージョンワークシート」](#) に **ILOM** および **BIOS** のバージョンを記入します。

▼ コマンド行インタフェースを使用して **ILOM** および **BIOS** のファームウェアバージョンを確認する方法 (管理 **Ethernet** ポート経由)

- 1 イーサネットケーブル **RJ-45** を後面パネルのイーサネットポート **NET MGT** に接続します。

- 2 次のコマンドにより SSH 接続を確立し、プロンプトが表示されたら、デフォルトのパスワード **changeme** を入力します。

```
# ssh -l root sp_ip_address
```

```
changeme
```

正常にログインすると、SP にデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

```
->
```

- 3 ILOM のバージョン情報を表示する場合は、次のコマンドを入力します。

```
version
```

このコマンドにより、次のような出力が返されます。

```
SP firmware 2.0.2.16
SP firmware build number: 42063
SP firmware date: Mon Feb 9 22:45:34 PST 2009
SP filesystem version: 0.1.16
```

- 4 BIOS のバージョンを表示する場合は、次のコマンドを入力します。

```
show /SYS/BIOS
```

このコマンドにより、次のような出力が返されます。

```
/SYS/MB/BIOS
Targets:

Properties:
  type = BIOS
  fru_name = SYSTEM BIOS
  fru_description = SYSTEM BIOS
  fru_manufacturer = AMERICAN MEGATRENDS
  fru_version = 0ABMN052
  fru_part_number = AMIBIOS8

Commands:
  cd
  show
```

fru_version フィールドに、BIOS のバージョン番号が表示されます。

- 5 [13 ページの「ファームウェアバージョンワークシート」](#) に ILOM および BIOS のバージョンを記入します。

▼ LSI HBA のファームウェアバージョンを確認する方法

- 1 サーバーを再起動します。
- 2 システムの起動時に表示される LSI のファームウェアバージョンを記入します。

- 3 LSIの現在のファームウェアバージョンを13ページの「ファームウェアバージョンワークシート」に記入します。

ファームウェア更新の準備作業

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 20ページの「更新するファームウェアバージョンの決定方法」
- 20ページの「ファームウェアの更新版のダウンロード方法」

▼ 更新するファームウェアバージョンの決定方法

この手順の中で決定されたファームウェアの中間バージョンおよび対象バージョンは、13ページの「ファームウェアバージョンワークシート」に記入します。

- 1 サーバーに対して使用可能なファームウェアバージョンすべてに関する情報を『ご使用にあたって』で確認し、ダウンロードするファームウェアのバージョンが含まれるソフトウェアダウンロードバージョンを選択します。

注-ILOM およびBIOSの一部の更新版については、いったん中間のファームウェアバージョンに更新した後で、対象となるILOMバージョンに更新する必要があります。必要な中間ファームウェアバージョンは、『ご使用にあたって』に指定されています。

- 2 ファームウェアの中間バージョンおよび対象バージョンを13ページの「ファームウェアバージョンワークシート」に記入します。
- 3 サーバーの5ページの「製品情報Webサイト」に移動し、利用可能なソフトウェアダウンロードバージョンにアクセスします。

▼ ファームウェアの更新版のダウンロード方法

- 1 ダウンロードするファームウェアに対応するソフトウェアの更新版を特定します。20ページの「ファームウェア更新の準備作業」を参照してください。
- 2 適切なファームウェアの更新版に対応する行の「Download」をクリックします。
- 3 「Platform」ドロップダウンリストから「Firmware」を選択します。
- 4 ボックスをクリックして、ソフトウェア使用許諾条件に同意します。

- 5 Sun ダウンロードセンターのユーザー名およびパスワードを入力します。
ユーザー名とパスワードがない場合は、「Register Now」をクリックして登録を行ってください。登録は無料です。
- 6 適切なイメージファイル名をクリックします。ファイル名は **ILOM-firmware_version.ima** という形式です。
例: ILOM-3_0_3_31-r42822.pkg-Sun_Fire_X4800 Modular.pkg
- 7 目的のファイルを選択し「**Download Selected with Sun Download Manager**」ボタンをクリックすると、**SDM** が自動的にインストールされ、使用可能な状態になります。
ダウンロードサイトには、SDM を使用するための詳しい説明が記載されています。
SDM は使用することが推奨されますが、必須ではありません。SDM を使用する代わりに、ブラウザを使用してダウンロードするファイル名を直接クリックすることもできます。

ILOM およびシステム BIOS を更新する

ここでは、ILOM およびシステム BIOS を更新する 2 種類の方法について説明します。

- [21 ページの「Web インタフェースを使用して ILOM およびシステム BIOS を更新する方法」](#)
- [25 ページの「コマンド行インタフェースを使用して ILOM およびシステム BIOS を更新する方法」](#)

▼ Web インタフェースを使用して ILOM およびシステム BIOS を更新する方法

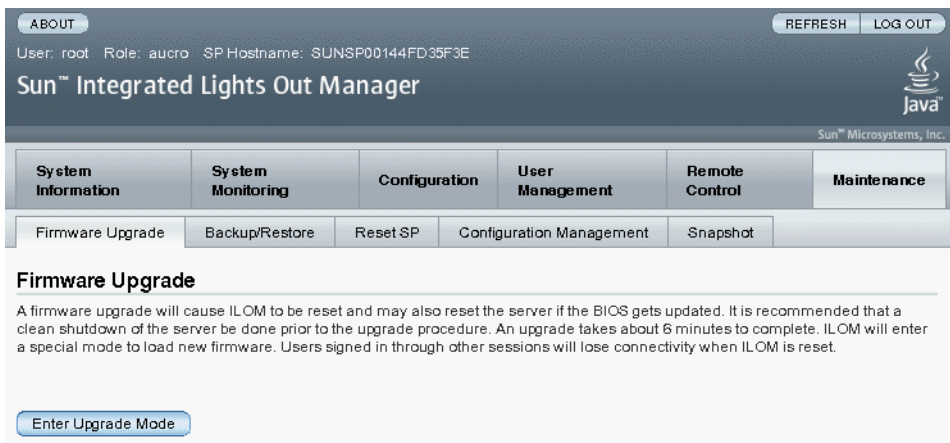
- 始める前に
- システム上で現在動作している ILOM のバージョンを識別します。[14 ページの「現在のファームウェアバージョンを特定する」](#)を参照してください。
 - Sun プラットフォームの製品 Web サイトから、使用しているサーバーまたは CMM のファームウェアイメージをダウンロードします。[20 ページの「ファームウェアの更新版のダウンロード方法」](#)を参照してください。
 - サポートされているプロトコル (TFTP、FTP、HTTP、HTTPS) を使用して、Web ブラウザが実行されているシステムにファームウェアイメージをコピーします。
 - Admin (a) 役割のアカウント権限をもつ ILOM ユーザー名とパスワードを取得します。システム上でファームウェアを更新するには、Admin (a) 権限が必要です。

注- ファームウェアの更新プロセスは、完了するまでに15分程度を要する場合があります。これは、使用しているシステムが4ソケットシステムであるか8ソケットシステムであるかによります。この間、ほかのILOMタスクを実行しないでください。ファームウェアの更新が完了すると、システムが再起動します。

- 1 ILOM Web インタフェースにログインします。

『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』の「ILOM Web インタフェースに接続する方法」を参照してください。

- 2 「Maintenance」->「Firmware Upgrade」を選択します。
「Firmware Upgrade」ページが表示されます。



The screenshot shows the Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) web interface. At the top, there is a navigation bar with 'ABOUT', 'REFRESH', and 'LOG OUT' buttons. Below this, the user information is displayed: 'User: root Role: auro SP Hostname: SUNSP00144FD35F3E'. The main title is 'Sun™ Integrated Lights Out Manager' with the Sun logo and 'Sun™ Microsystems, Inc.' below it. A navigation menu contains 'System Information', 'System Monitoring', 'Configuration', 'User Management', 'Remote Control', and 'Maintenance'. Under 'Maintenance', there are sub-links: 'Firmware Upgrade', 'Backup/Restore', 'Reset SP', 'Configuration Management', and 'Snapshot'. The 'Firmware Upgrade' section is active, showing a heading 'Firmware Upgrade' and a paragraph of text: 'A firmware upgrade will cause ILOM to be reset and may also reset the server if the BIOS gets updated. It is recommended that a clean shutdown of the server be done prior to the upgrade procedure. An upgrade takes about 6 minutes to complete. ILOM will enter a special mode to load new firmware. Users signed in through other sessions will lose connectivity when ILOM is reset.' At the bottom of this section is a button labeled 'Enter Upgrade Mode'.

- 3 「Firmware Upgrade」ページで、「Enter Upgrade Mode」をクリックします。
更新プロセスが完了すると、「Upgrade Verification」ダイアログが表示されます。このダイアログには、ログインしているほかのユーザーのセッションが切断されるといった内容のメッセージが表示されます。

- 4 「Upgrade verification」ダイアログボックスで「OK」をクリックし、操作を続行します。
- アップロードするイメージファイルを選択するためのプロンプトが表示されます。

- 5 次の操作を実行します。
- 次のいずれかの手順を実行して、イメージの位置を指定します。
 - 「Browse」をクリックし、インストールするファームウェアイメージの場所を選択します。
 - 使用しているシステムでサポートされている場合は、「Specify URL」をクリックします。ファームウェアイメージのURLをテキストボックスに入力します。
 - 「Upload」ボタンをクリックして、ファイルをアップロードし検証します。ファイルがアップロードされ検証されるまで待ちます。
- 「Firmware Verification」ページが表示されます。
- 6 「Firmware Verification」ページで、次のいずれかのオプションを有効にします。
- Preserve Configuration.** ILOM の既存の設定を保存し更新プロセスの完了後に復元する場合は、このオプションを有効にします。
 - Delay BIOS upgrade until next server power off.** システムの次回再起動時まで BIOS アップグレードを延期する場合は、このオプションを有効にします。

- 7 「Start Upgrade」をクリックして、アップグレードプロセスを開始するか、「Exit」をクリックしてプロセスを取り消します。
- 「Start Upgrade」をクリックすると、アップグレードプロセスが開始され、プロセスの続行を確認するプロンプトが表示されます。

注-ファームウェア更新の前にILOMの設定を保存しなかった場合は、ILOMの初期セットアップ処理を実行してILOMに再接続する必要があります。

- 8 プロンプトで「OK」をクリックして続行します。
- 「Update Status」ページが表示され、更新の進捗状況が表示されます。更新の進捗状況が100%に達すると、ファームウェアのアップロードは完了です。アップロードが完了すると、システムは自動的に再起動します。

注-更新の完了後、ILOMのWebインタフェースが正しく再表示されないことがあります。ILOM Web インタフェースで情報が欠落している場合やエラーメッセージが表示される場合は、更新前のバージョンのキャッシュされているページが表示されている可能性があります。ブラウザのキャッシュをクリアしてブラウザを再リフレッシュしてから、続行してください。

- 9 SP ILOM Web インタフェースにログインします。
- 10 「System Information」->「Version」を選択して、SPまたはCMMのファームウェアバージョンが、インストールしたファームウェアイメージのバージョンと一致することを確認します。

The screenshot shows the Sun ILOM Web interface. The main navigation bar includes 'System Information', 'System Monitoring', 'Configuration', 'User Management', 'Remote Control', and 'Maintenance'. Below this, there are sub-navigation tabs: 'Versions', 'Session Time-Out', 'Components', and 'Identification Information'. The 'Versions' tab is selected, and the page title is 'Versions'. Below the title, there is a description: 'View the version of ILOM firmware currently in use.' A table titled 'Version Information' displays the following data:

Property	Value
SP Firmware Version	3.0.3.31
SP Firmware Build Number	46984
SP Firmware Date	Wed Jul 22 09:57:54 CST 2009
SP Filesystem Version	0.1.22

▼ コマンド行インタフェースを使用して ILOM およびシステム BIOS を更新する方法

- 始める前に
- システム上で現在動作している ILOM のバージョンを識別します。14 ページの「現在のファームウェアバージョンを特定する」を参照してください。
 - Sun プラットフォームの製品 Web サイトから、使用しているサーバーのファームウェアイメージをダウンロードします。20 ページの「ファームウェアの更新版のダウンロード方法」を参照してください。
 - サポートされているプロトコル (TFTP、FTP、HTTP、HTTPS) を使用してファームウェアイメージをローカルサーバーにコピーします。
 - Admin (a) 役割のアカウント権限をもつ ILOM ユーザー名とパスワードを取得します。システム上でファームウェアを更新するには、Admin (a) 権限が必要です。
 - ファームウェアを更新するためのネットワーク接続が確立されていることを確認する場合は、-> **show /SP/network** と入力します。

注-ファームウェアの更新プロセスは、完了するまでに15分から20分程度を要します。これは、使用しているシステムが4ソケットシステムであるか8ソケットシステムであるかによります。この間、ほかのILOMタスクを実行しないでください。ファームウェアの更新が完了すると、システムが自動的に再起動します。

1 ILOM CLI にログインします。

詳細は、『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』の「ILOM への接続」を参照してください。

2 次のコマンドを入力して、ILOM ファームウェアイメージをロードします。

```
->load -source supported_protocol ://server_ip/path_to_firmware_image /filename.ima
```

TFTP、FTP、HTTP、またはHTTPSを使用します。

ファームウェア更新プロセスについての注意が表示され、続いてイメージをロードするためのメッセージプロンプトが表示されます。この注意の内容は、使用しているサーバープラットフォームによって異なります。

3 指定したファイルをロードするためのプロンプトに対し、「はい」の場合は「y」、「いいえ」の場合は「n」を入力します。

設定の保存を確認するプロンプトが示されます。

4 設定の保存についてのプロンプトで、「はい」の場合は「y」、「いいえ」の場合は「n」を入力します。

ILOM の既存の設定を保存して更新プロセスの完了後に復元する場合は、「y」と入力します。

このプロンプトで「n」と入力すると、これとは別のプラットフォーム固有のプロンプトが表示されます。

また、BIOS の更新を延期するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。

- 5 サーバーを強制終了して BIOS をアップグレードするかどうかを尋ねるメッセージに対して、「はい」の場合は「y」、「いいえ」の場合は「n」を入力します。

注-プロンプトで「n」(「いいえ」)を入力すると、システムの次回再起動時まで BIOS の更新が延期されます。プロンプトで「y」(「はい」)を入力すると、ファームウェア更新の際、必要であれば BIOS が自動的に更新されます。

指定されたファームウェアファイルがロードされると、システムが自動的に再起動して、ファームウェアの更新が完了します。

- 6 手順 1 で入力したユーザー名とパスワードを使用して、SSH 接続経由で ILOM サーバーの SP または CMM に再接続します。
ファームウェア更新の前に ILOM の設定を保存しなかった場合は、ILOM の初期セットアップ処理を実行して ILOM に再接続する必要があります。詳細は、『[Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル](#)』の「ILOM およびシステムコンソールとの通信」を参照してください。
- 7 正しいファームウェアバージョンがインストールされたことを確認するため、CLI プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
-> version
```

組み込み HBA BIOS を更新する

LSI ファームウェアを更新するには、専用の CD または CD イメージからシステムを起動する必要があります。

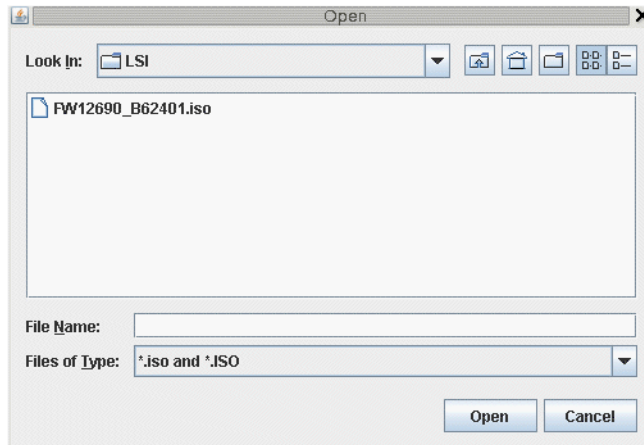
次の 2 とおりの方法で更新できます。

- 26 ページの「[リモートコンソールを使用して LSI ファームウェアを更新する方法](#)」
- 28 ページの「[LSI ファームウェアをローカルで更新する方法](#)」

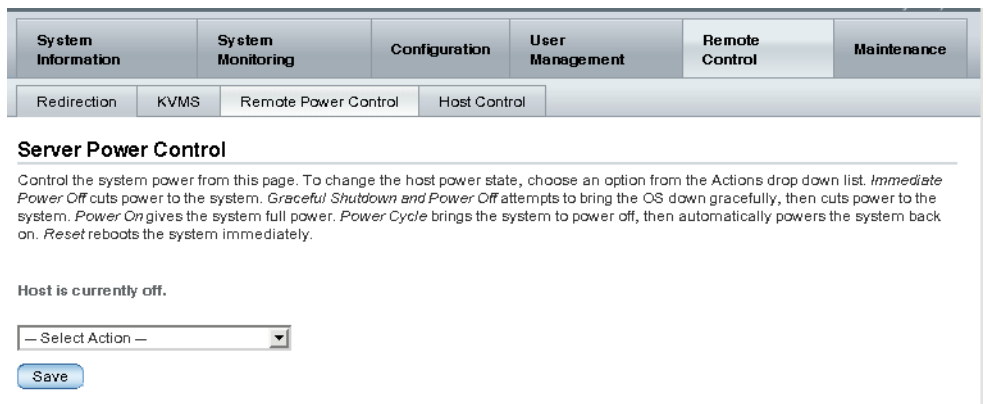
▼ リモートコンソールを使用して LSI ファームウェアを更新する方法

- 1 『[Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル](#)』の「[ILOM Web インタフェースに接続する方法](#)」に記載されている手順に従って、ILOM リモートコンソールに接続します。
- 2 リモートコンソールウィンドウで、「Devices」を選択します。

- 3 ポップアップ画面で、**CD-ROM イメージ**を選択します。
ドロップダウンメニューの選択項目にチェックマークが表示されます。
- 4 **LSI ファームウェアの更新イメージファイル(.iso ファイル)**を参照し、正しい **.iso** ファイルを選択します。



- 5 **ILOM の GUI**で「**Remote Control**」->「**Remote Power Control**」を選択します。



- 6 ドロップダウンメニューから「**Reset**」を選択します。
- 7 システムが再起動したら、リモートコンソールウィンドウから「**1 (Perform the Update)**」を選択します。
更新が実行されます。
更新が完了すると、コンソールに新しいプロンプトが表示されます。

- 8 リモートコンソールウィンドウで、「**Devices**」->「**CDROM Image**」を選択し、LSI ファームウェアの更新イメージファイル(.iso ファイル)を削除します。
- 9 「**Keyboard**」->「**Control Alt Delete**」を選択します。
システムが起動し、起動メッセージに新しい LSI ファームウェアのバージョンが表示されます。
新しい LSI ファームウェアのバージョンを確認します。

▼ LSI ファームウェアをローカルで更新する方法

- 1 **Sun Fire X86** サーバーの **Web** サイトから LSI ファームウェアの .iso ファイルをダウンロードし、起動用 CD にコピーします。

注 - 起動用 CD の内容は、オペレーティングシステムで確認すると、空の状態として表示されます。これは、正常な動作です。

- 2 起動用 CD を挿入し、サーバーを再起動します。
ファームウェアがアップグレードされます。
- 3 システムをリブートします。
起動メッセージに新しい LSI ファームウェアのバージョンが表示されます。

インジケータ、センサー、およびトラップ

この章では、ILOM のセンサーとインジケータ、SNMP トラップ、および PET トラップについて説明します。

- インジケータは、LED などのシステムインジケータの状態を通知するためのものです。29 ページの「インジケータ」を参照してください。
- センサーは、電圧、温度、ファン速度、インストールおよび削除されたコンポーネントなど、サーバーに関するさまざまな物理情報を通知するためのものです。31 ページの「センサー」を参照してください。
- SNMP トラップおよび PET トラップは、イベントに関する情報をイベントログおよび IPMI ベースボード管理コントローラに送信するためのものです。36 ページの「SNMP トラップおよび PET トラップ」を参照してください。

インジケータ

これらの値は、シャーシやその他のシステムコンポーネントの LED の状態を表しています。

センサー	説明
OK	緑色の OK LED の状態: <ul style="list-style-type: none">■ オン - システム電源がオンです。■ すばやく点滅 - SP が起動中です。システム電源はオンになる準備ができていません。■ ゆっくり点滅 - ホストが起動中です。■ スタンバイ - システム電源がオフです。■ オフ - G5 システム電源が接続されていません。
SERVICE	オレンジ色の保守用 LED の状態: <ul style="list-style-type: none">■ オン - システムに障害が発生しています■ オフ - システムに障害は発生していません。

センサー	説明
TEMPFAIL	オレンジ色のシャーシ温度障害 LED の状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン-システムの動作温度が正常の範囲を超えているため、電源をオンにできません。 ■ オフ-システムの動作温度が正常の範囲内にあり、電源をオンにできます。
LOCATE	白色の位置特定 LED の状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ すばやく点滅 - 位置特定 LED が点滅しています (システムを識別中) ■ オフ - 位置特定 LED は点滅していません
注 - NEM インジケータでは、 n は 0 または 1 です。	
NEM n /OK	NEM の緑色 LED の状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン - NEM がオンです。 ■ オフ - NEM がオフです。
NEM n /SERVICE	NEM のオレンジ色 LED の状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン - NEM に障害が発生しています ■ オフ - NEM に障害は発生していません
NEM n /OK2RM	NEM の青色 LED の状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン - NEM はいつでも取り外せます ■ オフ - NEM はまだ取り外せません
NEM n /LOCATE	NEM の位置特定ボタン/LED の状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン - NEM の位置特定 LED がオンです ■ オフ - NEM の位置特定 LED がオフです
FM n /SERVICE	ファンモジュールおよびそのオレンジ色 LED の状態。 n は 0 から 3: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン - LED がオンで、ファンモジュールに障害が発生しています ■ オフ - LED がオフで、ファンモジュールに障害は発生していません
注 - すべての HDD インジケータで、 n は 0 から 7 です。	
DBP/HDD n /SVC	HDD およびそのオレンジ色 LED の状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン - HDD に障害が発生しています ■ オフ - HDD に障害は発生していません
DBP/HDD n /OK2RM	HDD の青色の取り外し可能 LED の状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン - HDD はいつでも取り外せます ■ オフ - HDD はまだ取り外せません
注 - すべてのプロセッサモジュールインジケータで、 n は 0 から 3 です。	

センサー	説明
BLn/OK	プロセッサモジュールの緑色のOK LEDの状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン-プロセッサモジュールは実行中です ■ ゆっくり点滅-プロセッサモジュールは起動中です ■ オフ-プロセッサモジュールはオフラインです
BLn/SERVICE	プロセッサモジュールのオレンジ色の保守用LEDの状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン-プロセッサモジュールに障害が発生しています ■ オフ-プロセッサモジュールに障害は発生していません
BLn/OK2RM	プロセッサモジュールの青色の取り外し可能LEDの状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ オン-プロセッサモジュールはいつでも取り外せません ■ オフ-プロセッサモジュールはまだ取り外せません
BLn/LOCATE	プロセッサモジュールの位置特定ボタン/白色LEDの状態: <ul style="list-style-type: none"> ■ すばやく点滅-位置特定LEDが点滅しています ■ オフ-位置特定LEDがオフです
BLn/FMODx/SVC	プロセッサモジュールのファンモジュールにおける保守用LEDの状態(xは0または1): <ul style="list-style-type: none"> ■ オン-ファンモジュールに障害が発生しています ■ オフ-ファンモジュールに障害は発生していません
BLn/Px/SVC	プロセッサモジュールのCPUに関する赤色保守用LEDの状態(xは0または1): <ul style="list-style-type: none"> ■ オン-CPUに障害が発生しています ■ オフ-CPUに障害は発生していません
BLn/Px/D y/SVC	プロセッサモジュールのDIMMの1つに対応する保守用LEDの状態(xおよびyの意味は次のとおり): <ul style="list-style-type: none"> ■ xはCPU 0またはCPU 1を表します ■ yはDIMM 0からDIMM 15を表します。 値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ オン-DIMMに障害が発生しています ■ オフ-DIMMに障害は発生していません

センサー

センサーは、サーバーのコンポーネント全体に付いているセンサーの状態を通知します。

システムセンサー

センサーは、電圧、温度、ファン速度、インストールおよび削除されたコンポーネントなど、サーバーに関するさまざまな物理情報を通知するためのものです。

センサー	説明
PWRBS	使用されません
ACPI	システム電源 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0010 - サーバーがオンです ■ 0x0020 - サーバーがオフです
SP/T_AMB	サービスプロセッサの温度
T_AMB	シャーシ周囲温度 <ul style="list-style-type: none"> ■ 重大な上限温度: 40 °C ■ 回復不可能な上限温度: 45 °C
HOT	プロセッサモジュールのディスクリット温度センサー <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001: 非アサート。メインファンが通常で稼働しています ■ 0x0002: アサート。メインファンが高速で稼働しています
VPS	シャーシの消費電力 (ワット)

NEM[NEM]

サーバーは1つまたは2つのネットワーク拡張モジュール (NEM) をサポートしています。NEM x は、NEM0 または NEM1 を表します。

センサー	説明
NEM n /PRSNT	0x0001 - NEM n が存在しません 0x0002 - NEM n が存在しています
NEM n /STATE	0x0001 - NEM n が実行中です 0x0004 - NEM n は電源がオフです 0x0020 - NEM n はいつでも取り外せます
NEM n /ERR	0x0001 - アサート。NEM n に障害が発生しています 0x0002 - 非アサート。NEM n に障害は発生していません

シャーシのファンモジュールおよびファン

シャーシには4台のファンモジュールがあり、それぞれのモジュールに2基のファンが搭載されています。

- n は、ファンモジュール0から3を表します
- x はファン0または1を表します

センサー	説明
FMn/PRSNT	0x0001 - FMnが存在しません。障害ではありません 0x0002 - FMnが存在しています。障害です。
FMn/ERR	0x0001 - アサート。FMnが存在しません。保守用LEDがオンです。 0x0002 - 非アサート。FMnの障害ではありません。
FMn/Fx/TACH	1分あたりのファンの回転速度。

電源

ここでは、各種電源センサーを表にまとめてあります。PS_nは、PS0からPS3を表します。

センサー	説明
PSn/P_IN	PSnの入力電力
PSn/P_OUT	PSnの出力電力
PSn/V_IN	PSnの入力電圧
PSn/V_12V	PSnの12Vレールの電圧
PSn/V_3V3	PSnの3.3Vレールの電圧
PSn/T_AMB	PSnの周囲温度センサー
PSn/V_OUT_OK	PSn出力のディスクリートセンサー。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn - 出力はオフです ■ 0x0002 - アサート - PSn - 出力はオンです
PSn/V_IN_ERR	PSnの入力電圧エラー。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn - 入力電圧は正常です ■ 0x0002 - アサート - PSn - 入力電圧エラー
PSn/V_IN_WARN	PSnの入力電圧の警告。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn - 入力電圧は正常です ■ 0x0002 - アサート - PSn - 入力電圧が範囲外です
PSn/V_OUT_ERR	PSnの出力電圧エラー <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn - 出力電圧は正常です ■ 0x0002 - アサート - PSn - 出力電圧エラー
PSn/I_OUT_ERR	PSnの出力電流 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn - 出力電流は正常です ■ 0x0002 - アサート - PSn - 出力電流エラー

センサー	説明
PSn/I_OUT_WARN	PSn の入力電流の警告 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn - 出力電流は正常です ■ 0x0002 - アサート - PSn - 出力電流が範囲外です
PSn/T_ERR	PSn の温度障害 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn の温度は正常です ■ 0x0002 - アサート - PSn 温度エラー
PSn/T_WARN	PSn の温度の警告 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn の温度は正常です ■ 0x0002 - アサート - PSn 温度の警告
PSn/FAN_ERR	PSn のファンの障害 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn のファンは正常です ■ 0x0002 - アサート - PSn ファンに障害が発生しています
PSn/FAN_WARN	PSn のファンの警告 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn のファンは正常です ■ 0x0002 - アサート - PSn ファンの警告
PSn/ERR	PSn のエラー <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - 非アサート - PSn は正常です ■ 0x0002 - アサート - PSn に障害が発生しています
PSn PRSNT	PSn の存在 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - PSn が存在しません。PSn が存在せず、シャーシに障害が発生しています。 ■ 0x0002 - PSn が存在しています。シャーシは正常です。

ハードディスクドライブセンサー

サーバーは 8 台のハードディスクドライブ (HDD) をサポートしています。HDD n は、HDD0 から HDD7 を表します。

センサー	説明
DBP/HDD n /PRSNT	HDD n の存在 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - HDDn が存在しません。これは障害ではありません。 ■ 0x0002 - HDD が存在しています。
DBP/HDD n /STATE	HDD n の状態 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0x0001 - HDDn は正常です。 ■ 0x0002 - HDD に障害が発生しています。

プロセッサモジュール

サーバーには、2台または4台のプロセッサモジュールが搭載されています。BL*n*は、プロセッサモジュールBL0からBL3を表します。

センサー	例:	説明
BL <i>n</i> /PRSNT	0x02	0x02は存在しています。0x01は存在していません。 <ul style="list-style-type: none"> ■ プロセッサモジュール0および3は必ず存在します。 ■ プロセッサモジュール1および2はオプションです。
BL <i>n</i> /VPS	290ワット	プロセッサモジュールが使用している電力。
BL <i>n</i> /STATE	0x04	値および範囲は今後決定します
BL <i>n</i> /ERR	0x01	値および範囲は今後決定します
BL <i>n</i> /HOT	0x01	値および範囲は今後決定します
BL <i>n</i> /FEM <i>x</i> /PRSNT	0x02	各プロセッサモジュールでは1つまたは2つのファブリック拡張モジュール(FEM)、FEM0とFEM1を使用できます。
BL <i>n</i> /REM/PRSNT	0x01	各プロセッサモジュールではRAID拡張モジュール(REM)を1つ使用できます。
EM <i>x.x</i> /PRSNT	0x01	サーバーには、8つのPCIe ExpansionModuleスロットがあります。各プロセッサモジュールは2つのスロットに関連付けられています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0.0-スロット0-BL0 ■ 0.1-スロット1-BL0 ■ 1.0-スロット2-BL1 ■ 1.1-スロット3-BL1 ■ 2.0-スロット4-BL2 ■ 2.1-スロット5-BL2 ■ 3.0-スロット6-BL3 ■ 3.1-スロット7-BL3
BL <i>n</i> /P <i>x</i> /PRSNT	0x02	各プロセッサモジュールは2つのプロセッサ、P0およびP1をサポートしています。
BL <i>n</i> /FMOD <i>x</i> /PRSNT	0x01	各プロセッサモジュールは2つのファンモジュール、FMOD0およびFMOD1をサポートしています。
BL <i>n</i> /T_AMB	27℃	プロセッサモジュールの周辺温度。

SNMPトラップおよびPETトラップ

SNMPトラップは、ILOMの管理下にあるSNMPデバイスで有効になっているSNMPエージェントによって生成されます。ILOMはSNMPトラップを受信して、これらをイベントログに表示されるSNMPイベントメッセージに変換します。

Platform Event Trap (PET) イベントは、Alert Standard Format (ASF) または IPMI ベースボード管理コントローラを備えたシステムによって生成されます。PET イベントは、発生する可能性があるシステムの障害を事前に報告します。

管理情報ベース (MIB) はツールとドライバの CD に収録されています。または、<http://www.oracle.com/goto/x4800> からダウンロードすることもできます。

次の表は、トラップとセンサーの関係を示したものです。

センサー	トラップ/イベント/重要度	説明
NEM[NEM]	sunHwTrapIOFault event fault.chassis.device.fail MAJOR (中度)	IO サブシステムのコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。
	sunHwTrapIOFaultCleared event fault.chassis.device.fail INFORMATIONAL (情報のみ)	IO サブシステムのコンポーネントの障害がクリアされました。
PS	sunHwTrapPowerSupplyFault event fault.chassis.env.power.loss MAJOR (中度)	電源装置コンポーネントで障害が発生した疑いがあります。
	sunHwTrapPowerSupplyFaultCleared event fault.chassis.env.power.loss INFORMATIONAL (情報のみ)	電源装置コンポーネントの障害がクリアされました。

センサー	トラップ/イベント/重要度	説明
T_AMB PSn/T_AMB BLn/T_AMB nは0から3	sunHwTrapTempCritThreshold Exceeded (超過) Upper critical threshold exceeded (重大なしきい値の上限を上回りました) MAJOR (中度)	温度センサーは、測定値が重大なしきい値設定の上限を上回ったか、重大なしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています。sunHwTrapThresholdType オブジェクトにより、しきい値が上限であったか下限であったかが示されます。
	sunHwTrapTempCritThreshold Deasserted (状態表明停止) Upper critical threshold no longer exceeded (重大なしきい値の上限を下回りました) INFORMATIONAL (情報のみ)	温度センサーは、測定値が重大なしきい値設定の上限を下回ったか、重大なしきい値設定の下限を上回っていることを報告しています。sunHwTrapThresholdType オブジェクトにより、しきい値が上限であったか下限であったかが示されます。
	sunHwTrapTempFatalThreshold Exceeded (超過) Upper fatal threshold exceeded (致命的なしきい値の上限を上回りました) CRITICAL (重大)	温度センサーは、測定値が致命的なしきい値設定の上限を上回ったか、致命的なしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています。sunHwTrapThresholdType オブジェクトにより、しきい値が上限であったか下限であったかが示されます。
	sunHwTrapTempFatalThreshold Deasserted (状態表明停止) Upper fatal threshold no longer exceeded (致命的なしきい値の上限を下回りました) INFORMATIONAL (情報のみ)	温度センサーは、測定値が致命的なしきい値設定の上限を下回ったか、致命的なしきい値設定の下限を上回っていることを報告しています。sunHwTrapThresholdType オブジェクトにより、しきい値が上限であったか下限であったかが示されます。

センサー	トラップ/イベント/重要度	説明
BLn/T_AMB n は 0 から 3	sunHwTrapTempNonCritThreshold Exceeded (超過) Upper noncritical threshold exceeded (重大でないしきい値の上限を上回りました) MINOR (軽度)	温度センサーは、測定値が重大でないしきい値設定の上限を上回ったか、重大でないしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています。sunHwTrapThresholdType オブジェクトにより、しきい値が上限であったか下限であったかが示されません。
	sunHwTrapTempOk Upper noncritical threshold no longer exceeded (重大でないしきい値の上限を下回りました) INFORMATIONAL (情報のみ)	温度センサーは、測定値が正常な動作範囲内にあることを報告しています。
HOT BLn/HOT	sunHwTrapComponentError Assert (表明) MAJOR (中度)	センサーがエラーを検出しました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。
	sunHwTrapComponentOk Deassert (表明停止) INFORMATIONAL (情報のみ)	センサーは正常な状態に戻りました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。
PWRBS PSn/V_IN_ERR PSn/V_IN_WARN PSn/V_OUT_ERR PSn/I_OUT_ERR PSn/I_OUT_WARN	sunHwTrapPowerSupplyError Assert (表明) MAJOR (中度)	電源装置センサーがエラーを検出しました。
PSn/T_ERR PSn/T_WARN PSn/FAN_ERR PSn/FAN_WARN PSn/ERR n は 0 から 3	sunHwTrapPowerSupplyOk Deassert (表明停止) INFORMATIONAL (情報のみ)	電源装置センサーは正常な状態に戻りました。

センサー	トラップ/イベント/重要度	説明
ACPI	sunHwTrapComponentError MAJOR (中度) 次のいずれか: <ul style="list-style-type: none"> ■ ACPI_ON_WORKING DEASSERT ■ ACPI_ON_WORKING DEASSERT ■ ACPI_SOFT_OFF ASSERT ■ ACPI_SOFT_OFF DEASSERT 	センサーがエラーを検出しました。この汎用のコンポーネントトラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。
PSn/V_OUT_OK nは0から3	sunHwTrapPowerSupplyError Deassert (表明停止) MAJOR (中度)	電源装置センサーがエラーを検出しました。
	sunHwTrapPowerSupplyOk Assert (表明) INFORMATIONAL (情報のみ)	電源装置センサーは正常な状態に戻りました。
DBP/HDDn/STATE nは0から7	sunHwTrapHardDriveStatus DRIVE_FAULT ASSERT INFORMATIONAL (情報のみ)	sunHwTrapComponentName で識別されるハードドライブの状態が変化しました。
	sunHwTrapHardDriveStatus DRIVE_FAULT DEASSERT INFORMATIONAL (情報のみ)	sunHwTrapComponentName で識別されるハードドライブの状態が変化しました。
	sunHwTrapHardDriveStatus PREDICTIVE_FAILURE ASSERT INFORMATIONAL (情報のみ)	sunHwTrapComponentName で識別されるハードドライブの状態が変化しました。
	sunHwTrapHardDriveStatus PREDICTIVE_FAILURE DEASSERT INFORMATIONAL (情報のみ)	sunHwTrapComponentName で識別されるハードドライブの状態が変化しました。
	sunHwTrapHardDriveStatus HOT_SPARE ASSERT INFORMATIONAL (情報のみ)	sunHwTrapComponentName で識別されるハードドライブの状態が変化しました。
	sunHwTrapHardDriveStatus HOT_SPARE DEASSERT INFORMATIONAL (情報のみ)	sunHwTrapComponentName で識別されるハードドライブの状態が変化しました。

索引

B

- BIOS ファームウェア[BIOSふぁーむうえあ]
 - CLIによる更新[CLIによるこうしん], 25-26
 - Web インタフェースによる更新[Webいんたふぁーすによるこうしん], 21-24
 - 更新[こうしん], 21

H

- HBA BIOS の更新[HBA BIOSのこうしん]
 - リモートコンソールを使用[りもーとこんそーるをしよう], 26-28
 - ローカルで実行[ろーかるでじっこう], 28

I

- ILOM ソフトウェアの概要, 11
- ILOM ファームウェア[ILOMふぁーむうえあ]
 - CLIによる更新[CLIによるこうしん], 25-26
 - Web インタフェースによる更新[Webいんたふぁーすによるこうしん], 21-24
 - 更新[こうしん], 21
- ILOM 補足マニュアルの概要, 9

P

- PET[PET]
 - トラップ[とらっぷ], 36
 - メッセージ[めっせーじ], 36

S

- SNMP[SNMP]
 - トラップ[とらっぷ], 36
 - メッセージ[めっせーじ], 36
- Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド, 11-12

ド

- ドキュメント, 5-8

フ

- ファームウェア[ふぁーむうえあ]
 - HBA BIOS の更新[HBA BIOSのこうしん], 26
 - ローカルで実行[ろーかるでじっこう], 28
- HBA BIOSの更新[HBA BIOSのこうしん]
 - リモートコンソールを使用[りもーとこんそーるをしよう], 26-28
- ILOM およびシステム BIOS の更新[ILOMおよびしすてむBIOSのこうしん]
 - CLIを使用[CLIをしよう], 25-26
 - Web インタフェースを使用[Webいんたふぁーすをしよう], 21-24
- ダウンロード[だうんろーど], 20-21
- 更新[こうしん], 13-28
- 更新するファームウェアバージョンの決定[こうしんするふぁーむうえあばーじょんのけってい], 20

- ファームウェア[ふあーむうえあ] (続き)
 - 更新の準備作業[こうしんのじゅんびさぎょう], 20
- ファームウェアバージョン, ワークシート, 13
- ファームウェアバージョン[ふあーむうえあばーじょん]
 - CLIによる確認(シリアルポート経由)[CLIによるかくにん(しりあるぽーとけいゆ)], 17-18
 - CLIによる確認(管理 Ethernet ポート経由)[CLIによるかくにん(かんりEthernetぽーとけいゆ)], 18-19
 - Web インタフェースによる確認[Webいんたふえーすによるかくにん], 14-17
- 現在のファームウェアバージョンの特定[げんざいのふあーむうえあばーじょんのとくてい], 14